

|||||

# 靈長類研究所年報

|||||

**Vol. 32**

**2002**

**ANNUAL REPORTS OF THE  
PRIMATE RESEARCH INSTITUTE  
KYOTO UNIVERSITY**

# 目次

I 巻頭言 .....	1
II 研究所の概要 .....	2
1. 組織 .....	2
2. 予算概況 .....	4
3. 図書 .....	5
4. 資料 .....	15
5. サル類飼育頭数・動態 .....	17
6. 人事異動 .....	18
7. 海外渡航 .....	18
8. 非常勤講師 .....	21
9. リサーチ・アシスタント (R・A) .....	21
10. ティーチング・アシスタント (T・A) .....	21
11. 研究活動 .....	22
(1) 研究部門及び附属施設 .....	22
進化系統研究部門 .....	22
形態進化分野 .....	22
集団遺伝分野 .....	25
系統発生分野 .....	28
社会生態研究部門 .....	30
生態機構分野 .....	30
社会構造分野 .....	32
行動神経研究部門 .....	37
思考言語分野 .....	37
認知学習分野 .....	44
行動発現分野 .....	45
分子生理研究部門 .....	49
器官調節分野 .....	49
遺伝子情報分野 .....	51
附属施設 .....	55
ニホンザル野外観察施設 .....	55
人類進化モデル研究センター .....	58
(2) 大学院 .....	62

(3) 学位取得者・論文題目 .....	70
(4) 外国人研究員・研修員 .....	70
(5) 日本人研究員・研修員 .....	71
(6) 研究集会 .....	72
12. 広報活動 .....	76
(1) 夏期セミナー（第13回） .....	76
(2) 公開講座（第17回） .....	76
(3) 市民公開（第12回） .....	77
(4) ホームページ .....	77
(5) 研究所見学者 .....	77
(6) 春期セミナー（第1回） .....	77
III 退官にあたって .....	79
IV 自己点検・評価委員会報告 .....	80
V COE 形成基礎研究費「類人猿の進化と人類の成立」としての活動 .....	80
1. 13年度研究全般について .....	80
2. COE 国際シンポジウム及びその他の学術集会 .....	81
3. COE 外国人研究員 .....	85
4. COE 非常勤研究員 .....	86
5. COE 研究支援推進員 .....	86
VI 共同利用研究 .....	86
1. 概要 .....	86
(1) 計画研究 .....	86
(2) 応募および採択状況 .....	87
(3) 研究会 .....	87
2. 研究成果 .....	88
(1) 計画研究 .....	88
(2) 自由研究 .....	99
(3) 資料提供 .....	108
(4) 所外供給 .....	112
(5) 平成13年度で終了した計画研究 .....	117
3. 共同利用研究会 .....	120

ホミニゼーション研究会は、毎年異なるテーマを掲げて、広い視野からの学際的な討論の場を提供してきた。今回は、ここ最近取り上げられていなかった「知性」の問題を取り上げた。「知性の進化」と銘打ったが、その背景となる「知性」の研究の現状を、進化心理学、考古学、遺伝学、認知神経科学、ロボティクス、発達心理学、比較認知科学、そして霊長類学という幅広い領域の研究者によって概説していただき、討論を行った。講演者の幅広さと、「知性の進化」という、それ自体を直接のテーマとしている研究者の少なさからか、研究会全体を包括するような活発な議論にいたらなかったのは少々残念ではある。ただし、それぞれの研究者から提案されたいくつかの興味深い考え—たとえば知性の進化における性淘汰の役割、知性を考える上での情動の重要性、知性における身体の役割など—、については分野を超えて傾聴に値すべきも

のであったと思う。知性とは一体何者で、それはどのように発達し、発現するのか？そしてその進化はいかんしておこったのか？このような問いに答えるためには、特定の研究分野だけでなく、従来は想像もつかなかった研究領域とのコラボレーションが必要であり、かつ可能であることが、この研究会は強く物語っていたといえる。

ホミニゼーション研究会も30回を超え、その方向性についての真摯な自己評価が必要な時期に来ているように思う。しかし、ふだんはあまり接することのない異分野の研究者が、それぞれの視点から知見をもちよって討論する「場」としての重要性は30年を経た今も失われてはいない。

(世話人：上原重男・友永雅己・Michael A. Huffman  
・本郷一美・田中正之)

(文責：友永雅己)

平成 14 年 8 月 27 日

発行者 京都大学霊長類研究所  
〒484-8506 愛知県犬山市官林 41 番地の 2  
TEL: 0568-63-0567  
FAX: 0568-63-0085

編集 霊長類研究所広報委員会  
國松 豊・浅岡一雄\*・杉浦秀樹\*・  
田中正之・Michael A. Huffman・東 年昭・  
宮田志保\*  
\*編集責任者

印刷所 株式会社 コームラ  
〒500-8227 岐阜県岐阜市北一色 8-7-28  
TEL: 058-229-5858